

世界を変える

福岡教育大学附属久留米中学校 二年 兵藤 志帆

私は幼い頃、とても頑固で、人の意見を聞かない子どもでした。お楽しみ会の遊びを決めるとき、委員や係を決めるときなどは、自分のやりたいものになるまで考えを曲げませんでした。そんな私を見かねた先生は、よく「少しは見方や考え方を変えてみたらどうか。」と声をかけてくれました。もちろん、当時の私は「頑固」なので、その言葉を全く受け入れられませんでした。

相手の立場に立って考えるとはどういうことなのか、具体的に考えてみます。

例えば、私の家では犬を二匹飼っています。ミニチュアダックスとチワワです。はじめは外で生活していた愛犬たちですが、少し元気がよすぎるところがあるため、鳴き声が近所の迷惑になってはいけないと思い、室内で飼うことになりました。その際、祖母は犬のためを思って、ケージに入れず、自由に動き回れるようにしていました。しかし、父はそんな祖母に対して、犬をケージに入れておいてほしいと文句を言います。

みなさんはこの話を聞いてどう思いましたか。犬をケージに入れるなんてかわいそうだ。と思った人も多いのではないのでしょうか。祖母としては、犬のことを思い行動をした自分は「善」で、それに反対する父、つまり、犬のことを思っていない行動は「悪」になります。

では、見方を変えてみましょう。犬を自由に動き回らせることに反対していた父ですが、何も理由がなくてそうしていたわけではなくて、実は、私が犬に対してアレルギーを持っているからなんです。父としては、自分の娘の身を守る行動をした自分が「善」で、娘の安全を脅かす行いは「悪」なのです。

なんだ、それならそうと言ってくれればいいじゃないかと思ったことでしょう。私が言いたいのは、「善悪」や「正義」というものがほんのわずかなきっかけで覆りうるということです。

イスラエルとハマスの戦争。先ほどとは事の重大さも複雑さも違います。イスラエルのパレスチナにはユダヤ教、キリスト教、イスラム教の3つの聖地が集まった、エルサレムという土地があります。このエルサレムを含んだ周辺の土地を、自分たちのものにして建国しようとしたことを発端に、イスラエルとハマスの対立が始まりました。

テレビやSNSを見ているとハマスが奇襲攻撃を始めたとか、何人もの死傷者が出たとかいう報道が連日されており、どこか世間はハマスを敵対視し、イスラエルを擁護しているのかなという印象を受けます。事実、私の中ではそのような構図が自然とできあがっていました。

誤解のないようにあらかじめ言っておきたいのは、私は決して戦争や武力を肯定しているわけではないということです。しかし、それでも、戦争や紛争、外交問題に関する報道を耳にするたびに、「本当にそうなのか？」と私は思ってしまう。その内容が揺るぎない事実だったとしても、それをそのまま受け取って良いものかと考えてしまいます。だって、「善悪」や「正義」はちょっとしたきっかけで簡単に覆ってしまうから。

小学生の頃の私は、ものの見方を変えるということが何なのかさっぱりわかりませんでした。が、中学生になった今は少しだけわかる気がしています。「相手の意見や主張を推し測ること。」「なぜ、どうしてと、考えること。」「そうすれば、少なくとも、自分と考えが違う人を排除しようという考えにはなりません。ものの見方を変えれば、見える世界が変わる。一人一人が自分の世界を変えることが、私たちが生きるこの世界を変える大きな一歩になるのではないのでしょうか。